

和歌山県皮膚科医会学術講演会 2023年10月14日

進歩する皮膚リンパ腫の診断と治療～臨床現場からできること～

近年、皮膚リンパ腫の治療において日本で使用できる薬剤は欧米並みに増えている。腫瘍期でも外来通院で寛解にもっていくことができる症例もでてきた。しかし、そのための治療薬は個々の診断名で異なるため、正確な診断を突き詰めることが重要である。その一方、病理結果と臨床経過が一致しないため、積極的治療に踏み切れないこともある。病理だけで診断がつくわけではなく、臨床症状を合わせて総合的に検討することが重要である。つまり、皮膚リンパ腫は皮膚科でないと診断できない悪性腫瘍であるという認識が必要である。本講演では菌状息肉症を中心とした皮膚リンパ腫の検査、診断と基本的な治療方針をおさらいし、最新の知見を踏まえた今後の展望を述べたいと思う。